

《質疑応答》

○ 守田市長に対する質疑応答

【「平成 28 年熊本地震」の対応に係る検証報告の取りまとめ】

問 熊本地震の検証報告についての取りまとめについてなんですけれども、市のほうで既に復興まちづくり計画をたてられています。その中でこの検証の取りまとめというのはどこに活かしていかれるのかなど

これから先、これを読ませていただくと、市の中で活かしていくということなんですけれども、他の自治体や他の団体にどういう形で活用してもらおうのかといった点について考えをお聞かせください。

答 はい。なにしろ今回、ずっと職員大変頑張ってまいりました。それにおける各部署にとっての問題点をずっと洗ってもらって一通りまとめてもらいました。大変立派なものがあったと思っております。

今後、これを基にセクションをクロスオーバーする形でもっと議論し、その反省点を今後活かしていくために議論を深めたいと考えています。

また、今回の熊本地震で新潟地震における資料、その他を新潟県のほうから頂いたものが本当、今回役に立ったところでございまして、やっぱりその行政、市役所が実地で苦労した点、こんなこと、こういうことをやった点というのがつぶさにわかりまして、今回の震災対応、宇城市にとって相当役に立ちました。

それと同じような形で今後、煮詰めるところは煮詰めながら、他の市役所にも郵送させていただきたい。

役に立つだろうという自負があります。しっかりいいものができたらだろうと私は考えています。

問 この検証報告を作成したのは、現在の被災した自治体の中では初めてなのでしょうか。

答 今回、地震の検証報告につきましては、昨年度、熊本県のほうが被災後 3 か月間の地震の検証報告というものを作られました。それから、先日、新聞のほうでも報道されていましたが、玉名市さんが作成されたという記事を拝見しました。

その他、熊本地震検証室、熊本県庁の危機管理課というところがございますけれども、そこに聞いたところによりますと、県内でいくつかの市町村でこういう地震検証報告を作成するという話は聞いています。

問 その中で宇城市の独自性といいますか、先ほど、他の自治体に送って参考にしてほしいということがありましたけれども、よく優れている点といいますか、その辺があれば、教えてもらえますでしょうか。

答 独自性というよりもですね、現場は初めて、うちの職員も体験したところでございます。そのよその新潟、その他の資料も見ながらやったところなんです。それによってもいろいろ不備な点がございました。それを率直にずっとあげていくところでございます。今後、今後それを含めてどう対応したかを真摯に検討しているわけでございます。

まだ中途かもしれませんが、その段階をしっかりと記録させていただき、ぜひ宇城市においては次の世代に、そしてよその自治体にも参考にしていただけたら、きっと役に立つだろうというところがございます。

独自性というよりもひとつずつを細かくきちんと検証したいという思いからでございます。

問 職員の皆様、どういうふうに共有されるんですか。全員に配るわけですか。

答 まだそこまでいっていませんが、これは各部署ごとにして、それなりにしっかり議論したところがございますが、職員全員が全部をみてというところまではいってないところで、今後、実際のところのノウハウをもっともっと検証する必要はあろうかと考えています。

問 この検証報告書はホームページかなにかで公開されているのでしょうか。

答 これから、ホームページのほうでは掲載の予定としています。それから、職員についても庁内の掲示板のほうに掲示をいたしまして、庁内全体で共有をするということでただいま予定をしております。

本日、冊子を用意しておりますので、お配りします。(配布)

問 ホームページに公開されるのはいつぐらいになりそうでしょうか。

答 近いうちに公開をしたいと考えています。数日のうちにはアップをいたします。

問 先ほど、市長は新潟地震のときのものが役立ったと言われましたが、それは新潟地震の時の新潟の自治体の対応検証みたいなものが役に立ったということなのでしょう。

答 そうです。

問 これをご覧になって、いろんな意見が書かれていると思うんですけども、市長ご自身として、確かにその中に書かれているで、確かにそうだったなという点がひとつ、ふたつでも具体的な事例としてあれば教えていただきたいと思います。

答 なるほどなるほどなところはずべてなんですけれども、私から言わせてもらうなら、まだそんなところで不十分だったなという点は、判定の説明、その他がまだまだ不十分であった点、そして24時間体制で職員が避難所に配置するわけですけど、夜になりますと女性職員にとってはかなりしんどかった点、いろいろなトラブルがあった点、そういう点の細かい至らなさも含めて反省するところもしっかりありまして、こういう形で細かい点まで挙げてもらったということが今後の宇城市にとっても、被災自治体にとっても大変有効であったろうと考えるところです。

問 判定は、いわゆる住居被害の判定ですか。

答 そうです。

【シェアリング回遊観光モデル構築事業の実施】

問 シェアリング回遊観光モデルについてですが、5ヶ町合併のうち、最近の観光系の事業が三角に集中していると思うんですけども、三角に集中する理由づけがあれば教えていただきたい。

問 はい。もちろん世界遺産のある三角ですので、今後、三角町を宇城市の観光浮揚のための重点的に振興していきたいという気持ちはございますが、宇城市の宇城彩館がございます。また豊野アグリパーク、不知火温泉、この例えば、宇城彩館も熊本県で一・二番の売り上げを誇る物産館として、土曜日曜ともなりますと熊本市からたくさんの方においでいただいて宇城市の農産物を買われて、そしてそこから宅配で送っていただくような形でこれも行き帰りの大きな観光だと思っておりますが、とりわけて三角町においては、今後なかなか宿泊施設のない宇城市でございますので、その通過型と言われるところは致し方ないところなんです、その中でもそれをカバーすべく、体験型の観光、その他いろいろ、今後試みてみたい、その一端がこの「シェアリング回遊観光モデル構築事業」であると考えています。

【防災拠点センター（仮称）建設の進捗状況】

問 今回、この防災拠点センター、各地区ごとに旧5町の中で不知火が入ってないと思うんですが、海べたということもあるので、そこら辺の対応をどうするのかという点が一件と、今回、これだけの施設を新たに作るということで何が一番きっかけで今回、防災拠点センターを作りたいと市長自身がお考えになったのか、これから、この施設を宇城市の中でどういう施設としての位置づけでやっていきたいのかということをお聞かせください。

答 不知火地区に関しましては、現在、既存施設と新しい施設の整備等について、地元と調整中でございます。まだ最終確定ではありませんもので、あえてパース図などは挙げてないところでございます。

それと防災拠点センターにつきましては、やはり今回の熊本地震において、既存のこちらの施設ですね、ウイング含めまして、やっぱり公民館であり、体育館であり、ホールでありまして、避難所ではなかったところでして、相当、やっぱり避難というところではいろいろな不便もあったところございまして、その中で今回、国の施策の中で防災センターについては極めて有利な財源措置がありましたもので、ここでぜひこれを活用して本来の避難所、全部入れるものではありません。宇城市60,000人人口の中で30,000人の方々が避難なさったであろうと、自宅の庭の車に車中泊をなさった方も含めまして、そういう中でとても人数的に規模的に足りるものではございませんが、しかしながら、そこで食糧・水の供給、シャワー、そしてトイレ、その他の拠点をやっぱり整備する必要があったという点、そして、先ほど言いました、極めて財源的に有利であった点、本当、純粹なる防災センターだけだったら、宇城市の負担が1割程度で9割方が国・県の補助でというのが最初のとっかかりでしたので、ただそれにいろいろなものを付けますもので宇城市の負担が1割ということではございませんが、極めて有利な財源措置があったので、この際、この国の支援が厚いうちに整備をしようということで5か所、6か所になります。整備をしたいと考えたところです。

問 この防災拠点センターは、非常時にはそういう形で避難所になるんでしょうけれども、平時はどのような用途で使われるんでしょうか。

答 避難する部屋は、平時は会議室として使えるところでございます。それと集送センターですね、緊急物資の集送センターは、床を貼れば体育館まではいきませんが、大きな集会所もしくは簡単なミニバレー程度はできるだろうというところで、そういうところの集会所という施設として活用させていただきたい。それと現在の各町にあります中央公民館相当は本来、スクラップアンドビルドを宇城市の財政の長期目標にしておりますの

で、解体し、壊すものは壊しながら、防災拠点センターが、平時はその地区の集会機能をも持ってもらって、職員もそちらのほうに移り、決して新しい施設を作った分、職員が増えて、職員が配置されるということではございません。スクラップアンドビルドの原則を堅持していくところでございます。

問 今の説明は地区ごとの中央公民館的な機能を持たせるというふうな考えではないですか。

答 まあ、平時は無駄なものでは決してないという主張でございます。

問 中央公民館になるということではないんですね。

答 もちろんそうです。あくまでも防災拠点センターでございます。

【宇城市公共施設等総合管理計画【改訂版】の策定】

問 40年にされたということで、この前提として人口減少の加速化ということがありますが、40年後の人口想定というのがもし分かれば。

答 40年後はですね、35,796人となっています。今、59,756人が35,796人という予想です。

○ 平岡教育長に対する質疑応答

【不知火小学校及び松合小学校の統合】

問 アンケート結果なんですけれども、松合小学校の保護者の71%のほう統合を希望していたということで、次のこの2つの校区の皆様説明及び意見交換をして、統合はやむを得ないという結論に至ったということで、この校区の皆様というのは町内会長とかそういった方々のことでしょうか。どういった方々が統合はやむを得ないという結論に話されたのかを教えてください。

答 まず検討委員会がありましたので、そこにいらっしゃる囑託員の方々、区長様、PTA役員等々の、あと市議の方々、そういった方々の中での検討委員会を経ての校区ごと

の話の中です。

検討委員の構成メンバーということですか。

問 いえ、松合、不知火校区の皆様から統合はやむを得ないという結論に至ったというところがありますけれども、これは話し合いをした校区の皆様というのは。

答 松合校区と不知火両校区に検討委員会があります。その松合校区の構成委員でございますけれども、嘱託員、婦人会、消防団、漁協、そしてPTA、そのような方で構成をしております。概ね30数名の方で構成された会のほうに説明をいたしまして、そちらで会長様から会員の皆様に最終的に決を採っていただいた際に、地域がら、統合はやむを得ないという言葉をいただいたところでございます。

答（市長補足説明）

2〜3年ほど前に松合小学校の運動会、もしくは不知火小学校での不知火町での体育祭、不知火町全体での体育祭ですね、その中で市長としまして開会のあいさつをさせていただく中、松合小学校の統合はしないということの方針をお話しさせていただきました。

その中で松合小学校の保護者の方、PTAの方々から、複式学級もあって、不知火小学校との統合を望むというPTAの方々、実際に子供さんを松合小学校にやっている親御さんからの意見が強くなりまして、その中で松合小学校校区の年配の方々と言ったら失礼ですが、その地域の方々在实际、その学校に子供をやっている親が複式学級、その他を心配して、統合を望むからには我々としてはそれを尊重したほうがいいんじゃないか、統合やむなしという意見がでてきまして、このような合併の形になりました。途中で不知火小学校の新築場所をどこにするかというアンケートの中で松合小学校の親御さんの合併を望む意見の数字が7割、8割だったことをもって、そこを重く受け止め、方針を転回する必要があるのではないかという松合小学校校区の方々に対しての投げかけの中でそういう意見になったということでございます。

問 先ほどの説明は、ようするにこの検討委員会の中で松合、不知火両校区の参加者の構成委員の方々との意見交換の中で統合はやむを得ないという結論になったという解釈でよろしかったでしょうか。

答 はい。

問 この統合については、今日が発表ということによろしいですか。

それと、もう保護者の人達や地区の人達には方針が告げられているのでしょうか。

答 協議会、その他PTAの方々の結論がでたことをもって、その方向性でいきますという旨はお返ししておるところではございまして、昨日が議会の初日でございますので、一応、議会の方々にある程度の方針はお伝えした中での今日の発表だと理解しております。

問 統合する松合小学校はいつ開校したのですか。

答 松合小学校につきましては、昭和48年に教室等は建設しております。体育館は新しく建築しなおしておりますので、平成16年でございますが、校舎につきましては、昭和48年でございます。

問 開校は。

答 相当古い。明治？

申し訳ありません。後程回答ということでよろしいでしょうか。

不知火町は昔は松合町と不知火村であったのが、人口は逆転したぐらいで、松合も歴史も相当長いところでございますので。

松合小学校は、我々がみたところでは、昭和20年から30年にかけては、700名から800名の児童数がいたというところで、少しこの丁寧な説明をしたところです。